

日本建設技術
精工コンサルタント

創業記念式典を盛大に開催

今後の繁栄と更なる飛躍誓う

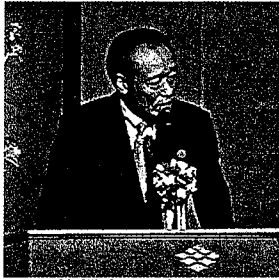
日本建設技術(唐津市北波多、原裕社長)の創業60周年と、(株)精工コンサルタント(同、佐々木義文社長)の創業40周年の記念式典が13日、唐津市の唐津シーサイドホテルで盛大に開催された。来賓やグループ企業

の社員ら約200人が出席。記念講演、永年勤続表彰、祝賀会などを行い、両社のこれまでのあゆみを振り返るとともに、今後の会社の繁栄とさらなる飛躍を誓いあった。

冒頭、原社長が日本建設技術(株)の60年間の歴史を説明した上で、「社員のおかげで厳しい時代を乗り切ることができた。今後も建設業をはじめ、

環境関連工法の研究、IT事業などに積極的に取り組み、時代のニーズを的確に捉えて、競争力と経営力を高めながら新たな挑戦を続けていきたい」と挨拶した。

佐々木社長は「今年2月に40周年を迎えた(株)精工コンサルタントは測量設計業務をはじめ、地盤や構造物の調査、電気通信なども手掛けており、県内でも類をみない総合コンサルタント会社として成長した。これは関係者の協力や社員の努力なくしては成しえなかったことであり、今後も技術の研鑽に



挨拶する原裕社長



祝賀会で挨拶する日本建設技術(株)の田中慎一郎常務取締役

努力、地域のために貢献できる企業を目指していきたい」と述べた。

来賓の古川知事は「しっかりと独自の技術を確認し、何らかの形で自分たちの技術を毎年報告できる企業は県内でも少ないと思う。この厳しい荒波を乗り越えられるのは素晴らしい企業であり、さらなる活躍を期待している」と祝辞を述べた。

記念講演では、佐賀大学名誉教授で日本建設技術(株)技術戦略本部統括本部長の林重徳氏が「気候変動と災害―そして土木の役割―をテーマに講演。温暖化による気象現象の変化と災害の関連性、日本における地震や津波な

どの発生歴、地盤技術の役割について解説し、その中で「土木の役割として、二酸化炭素削減対策や地震および海面上昇対策を地球規模で考える必要がある。土木工学の防災へのさらなる貢献を期待したい」と話した。

続いて原社長が「会社のおゆみと技術開発―これからの挑戦―と題して講演。1995年からガラス廃材の再資源化を目的としてミラクルソル(発泡廃ガラス)の開発に取り組み、これまでに土木や水質浄化など34のミラクルソル工法を実用化したことを紹介。最後に「まじめにやるべきことをしっかりと行い、夢を持ち挑戦していくことが大切」と話した。

式典終了後、会場を移し祝賀会を開催。和やかなムードの中で歓談した。

も技術の研鑽に

温暖化による気象現象の変化と災害の関連性、日本における地震や津波な